

第5回・決算書アナリスト試験出題の趣旨

第1問 選択問題である。ここでは、第2問以降で問えなかった事項を問い、総ての範囲から出題することを狙っている。各問のテキスト（第3版）の該当ページを示しておく。

1. → p. 29-31. 2. → p. 12. 3. → p. 12, 49. 4. → p. 18.
5. → p. 55. 6. → p. 45. 7. → p. 60-61. 8. → p. 10, 19-21.
9. → p. 67. 10. → p. 42.

第2問 収益性分析に係る問題である。

先ず、収益性分析の基本となる総資産当期純利益率（テキスト、第3版、p. 38.）を計算させ、これに基づき、趨勢分析（テキスト、第3版、p. 30.）により、前期と較べた当期の業績を判断させている。

資産利益率は、利益率と回転率に分解される（テキスト、第3版、p. 35）が、損益計算書の段階利益に沿って、企業の各活動の良否が判断されていく。ここでは、利益率の視点で分析している（テキスト、第3版、p. 44-45）。計算結果は、前期と較べて、営業資産営業利益率が大きく落ち込んでいることを示している。そこで、企業活動を反映している損益計算書を見て、どの企業活動に、原因があるかを答えさせている。

ここでは、利益率の分析を通じて、利益の変化の要素が、損益計算書のどの項目そして、どのような企業活動に由来するのかを見る眼を養おうとしている。

第3問 安全性に関わる問題であり、安全性の分析に係る基本的指標である流動比率（テキスト、第3版、p. 53.）と総資産負債比率（テキスト、第3版、p. 60.）から始まり、固定長期適合率（テキスト、第3版、p. 62.）、売上高支払利息比率（テキスト、第3版、p. 64.）を計算させている。

本問の大きな問題意識は、コロナが企業経営に与える影響を知って欲しいことである。そのためには、損益計算書の損益（段階利益）を追わなければならない（テキスト、第3版、p. 7, 13-16.）。そこで、これを行っている。ここでは、このコロナ騒ぎののち、新聞でもたびたび取り上げられるようになったROE経営の危うさも扱っている。

最後に、当座比率計算で安全性の問題をまとめている。

出題者の希望として、この試験に参加した受験生には、これからの人生設計、就職をどのように考えるかの一つの指針になって欲しいと願っている。また、先生方にも、学生諸姉諸君への将来設計のアドバイスの資料になればと考えている。

第4問 本試験の2本の柱である、投資に係る問題である。

投資の基本である利回りの計算（テキスト、第3版、p. 73.）から始めて、P E R（テキスト、第3版、p. 73.）、P B R（テキスト、第3版、p. 72.）を計算させ、これに基づき、割高、割高を判断させている。

出題において、有価証券報告書情報に興味を持たせることを意図している。また、「老後 2,000 万円」必要という時代における投資教育も目指している。

さらに、出題者として、検定簿記の限界を知ってもらいたいという意図とともに、先生方には、学生を簿記に誘導する切っ掛けになるものになれば という希望を持っている（テキスト、第3版、第10章）。